

2022年度地域活動助成費【社会貢献】 活動報告

備えとしての関係づくり

-共助による災害時の応急救護-

古川美和(保健学部看護学科看護養護教育学専攻)



I.目的 本活動は災害時の応急救護の実演を通して地域住民の関係づくりの強化を目指している。本活動の目的は武蔵野市の災害対応力を高めるために、地域内の共助を促進し、住民同士で学び合う場を提供することである。

II 本活動の場所:むちゅー事務所の紹介

本活動は武蔵野市中央地区商店連合会の多世代交流の場「むちゅー事務所」のイベントの一つとして実施した。当該事務所は武蔵野市の中央部分にあたる、JR三鷹駅北口側の中町・西久保・緑町、関前八幡町、吉祥寺本町3～4丁目、吉祥寺北町3～4丁目に立地する13の商店会の事務所である。ここでは「みんなが夢中になれるまち」をめざして毎週土曜日に多世代交流できる様々なイベントを開催している。

「むちゅー事務所」の名前の由来は、武蔵野市の「武(む)」と中央地区の「中(ちゅー)」をあわせている。本ポスター右上の図のねずみはむちゅー君とよばれており、武蔵野市中央地区商店連合会のキャラクターとして活躍している。

III.本活動の特徴

普段から講習会などに参加することが難しい子育て世代も体験できるように、親が応急救護を学んでいる間に、保育活動を実施することにある

IV.活動の準備

★事前打ち合わせ

事前打ち合わせを担当ごとにわかれ、合計6回おこなった。特に保育担当の森氏と学生ボランティア3名は、幼児の安全を守るための注意点、配慮、個人の担当に関して、zoomで詳細な打ち合わせをおこなった。

★広報活動

むちゅー事務所の活動に参加して下さっている地域のデザイナーの方のご協力でA4サイズのポスターを作成していただいた。地域の保育園等2か所、むちゅー事務所で配布してもらった。そのほか、ボランティア協力者が知人に呼びかけをしてもらった。(図1)



図1 広報活動用のポスター

VI.活動当日の実際(写真1.2.3.4)

当初の計画では、幼児は事務所の近くにある城山公園でちびっこ体操を、保護者はむちゅー事務所で応急救護の体験を実施する予定だった。しかし、当日は荒天で保育場所をむちゅー事務所に変更した。保育担当の森氏は保育内容を室内バージョンに変更し、ボランティアの学生も雨での活動を心配して自主的に自宅から折り紙や文房具を持参してくれた。幼児らは室内でも元気に怪我なく遊べ、保護者らは活動に集中することができた。応急救護の体験では、講師の東日本大震災の救護経験をもとにして、捻挫時の固定方法、簡易リュックサックの作成方法、靴として活用できることなど実践的な説明があった。保護者は熱心に興味深く活動に参加していた。

これに加えて、10:00～10:30まで同事務所内で行われていた「いきいきサロン」に参加されていた地域高齢者9名の方も飛び入り参加をしてくれた。思いもよらず自然発生的に多世代交流の場となり、大盛況におわった。

V.活動日時と参加者

★日時2023年3月25日(土) 10:30-11:30

★場所:武蔵野市中央地区商店連合会事務所
むちゅー事務所

★参加人数:23名

参加者内訳:幼児9名、保護者6名、地域高齢者8名

★ボランティアスタッフ等の人数:10名

・むちゅー事務所スタッフ 3名

・学生ボランティア3名 保育の補助担当

本学部看護学科看護養護専攻科 3年生2名

早稲田大学人間科学部健康福祉学科 4年生1名

・地域のボランティア 1名(会社員)

★活動の担当者

・保育者担当 森更紗氏(元ラート全日本選手・Aoba-Japan Bilingual Preschool 体操講師)

・応急救護の担当講師 荒井芳紀氏(秋草学園福祉教育専門学校専任教員 看護師)

・企画・運営 1名 古川美和(本学本学部講師)

・タイムキーパー 1名 亀山直子(本学本学部准教授)



写真1.講師とボランティア学生



写真2.学生ボランティアによる手遊び保育

表1.活動当日のスケジュール

時間	内容
9:30	ボランティアの集合、打ち合わせ
10:00	会場設営
10:30	参加者の集合、健康確認、名札づくり、自己紹介
10:40	親子分かれて、活動開始
	幼児:手遊び(折り紙・ゲーム)とけんけんパやスカーフを使った体操、縄跳び 保護者、高齢者:シミュレータを用い胸骨圧迫の体験、三角巾を用いた創傷処置の実演など
11:30	質疑応答と終了
11:40	片付け
12:10	解散



写真3.保護者と高齢者の応急救護



写真4.室内でのちびっこ体操